

☆＜共有＞ 動物看護職統一資格試験に向けての情報共有・意見交換の会

平成23年2月～3月 5か所開催（全国129校に呼びかけ55校参加）

☆ コアカリたたき案作成 2011年1月～7月

発起人会 2011年1月11日 第一回・2月16日 第二回・6月10日 第三回・7月7日 第四回会議

＜発起人＞ 穴吹学園・滋慶学園・東京愛犬学園・中央動物・中村学園・ヤマザキ学園・宮崎学園・シモゾノ学園

☆＜共有＞ コアカリ検討会(意見徴収・コアカリ作成委員の募集) 2011年7月28日 東京・30日 大阪 2開催地合計 35校参加

◆たたき案を元に意見交換 意見聴取

区々である各校の現行カリキュラムの整理開始

*分野の確認 *科目名称統一 *教科選出 *選択科目の確認 *コアカリキュラム教育総時間数（教育総時間の2/3）

◆今後の行程にあたっての提案

*コアカリ作成委員会設置 → 徴収意見の整理

☆コアカリ作成委員会 2011年8月～2012年8月

第1回 2011年8月29日・第2回10月10日・第3回 2012年 2月24日・第4回8月27日

委員長 石橋 妙子（大阪ペピィ動物看護専門学校）副委員長 山下真理子（国際動物専門学校・大宮国際動物専門学校）

委員 荒岡 杉（専門学校 穴吹動物看護カレッジ）稲葉 梨紗（専門学校 ルネサンス・ペット・アカデミー）

今西 孝一（国際動物専門学校・大宮国際動物専門学校）奥田 宏健（岡山理科大専門学校）

狩野 由佳（東北愛犬専門学校）神部 知江子（中央動物専門学校）坂元 祥彦（宮崎ペットワールド専門学校）

関 智恵子（大阪コミュニケーションアート専門学校）高塚 恵（吉田学園動物看護専門学校）

福田 智子（国際ペットワールド専門学校）古川 俊紀（広島アニマルケア専門学校）

世話役（高位平準化協議会） 宮崎 安弘・永井 正三・中野勘次郎・下園 恵子

☆＜共有＞ 動物看護師統一認定機構 設立に伴う説明会 2011年10月21日 38校参加

☆＜共有＞ 情報共有会・意見交換会

2012年5月14日 39校参加

☆ 「機構」大学・専門教育機関合同会議 2012年7月～10月

第1回 2012年 7月 8日・第2回9月11日・第3回10月 6日

機構（敬称略） 太田 光明 副機構長 試験運営小委員会座長・細井戸 大成 機構幹事長 資格認定小委員会座長

大学（敬称略） 若尾義人・村上洋介・左向敏紀・加隈良枝・前田憲孝・石岡克己・内田英二・本田三緒子・山川伊津子・古川敏紀・北澤多喜雄・神谷新司

専門教育機関（敬称略） 石橋妙子・山下真理子・大橋文人・原大二郎・佐伯潤・荒岡 杉・福田 智子・宮崎安弘・中野勘次郎・下園 恵子

☆ 機構主催「統一認定試験説明会」2012年10月30日 大阪 31日 東京 2開催地 55校参加（全国128校 呼びかけ）

統一認定化の背景と今後の展望、高位平準化の必要性・2012年度試験要項説明

機構推奨 2015年度以降試験範囲に対応する専修学校高位平準化コアカリキュラム共有（機構推奨：専修学校 モデルコアカリキュラム）

※D <コアカリキュラム作成の工程>

*発起人会において専門教育機関で現行している動物看護師養成カリキュラムを収集
(高位平準化対応連絡協議会44校の内20校からカリキュラムの協力があつた)

- ① 各校の現行カリキュラムを洗い出し
- ② 科目名称の統一
- ③ 分野分け(基礎・専門基礎・専門応用)
- ④ 各分野の定義を定め、所属教科を提示
- ⑤ 各教科のキーワード(履修科目)
- ⑥ 教科ごとの時間数の割り出し・・・アメリカの動物看護教育を参考 総時間2400時間
- ⑦ 文科省「専修学校の単位制導入」施行に伴い、教科時間数を単位換算
- ⑧ 学識者の先生方のアドバイスを受ける
- ⑨ 農林水産省並びに動物看護職制度在り方検討委員会に「案」として提出
- ⑩ 大学との合同会議 (カリキュラムの摺合せ・教科名の摺合せ)

<有識者の先生方からのアドバイス>

*山根義久先生(日本獣医師会会長・統一認定機構長)

家畜伝染病予防法の修学

*大橋文人先生(大阪府立大教授・動物看護職制度在り方検討委員・統一認定機構委員)

ホスピタリティー等、動物看護師ならではの業務の修得強化

単位の取り方 講義60時間は3単位(現2単位であつた)

インターン実習を多くとることが重要

将来的には「マイスター制」など専門学校卒動物看護師の向上目標を作ることも有用

*酒井健夫先生(日本大学教授・動物看護職協会監査)

コアカリキュラム教科への助言

マネジメント(顧客管理・トータルマネジメント)

PC実習(情報処理)

動物解剖生理学(臓器の形と機能・歯科(歯牙の発達と構造)・卵巣子宮精巢

薬理学(薬物学・化学式・医療廃棄物に関する知識)

関連法規(育児介護・健康保険)

講習衛生(ズーノーシス・滅菌消毒⇒院内感染)

産業動物(農場HACCP)

検査(細胞診)

その他 教育の姿勢やコアカリ委員会の運営にも的確なご助言を頂きました

<開業獣医師の先生方からのアドバイス>

*原 大二郎先生(獣徳会理事長・公益社団法人日本動物福祉協会副会長)

栄養の修得強化・・・療法食を担えることを目指す。ペットフード市場の現状も知ることにも有用

*佐伯 潤先生(全日本獣医師協同組合理事・日本小動物獣医師会理事)

実習、疾病学、看護学は今の動物医療現場の「臨床」を取り入れことでより実践力が上がる